

一 其車高広の事

仰せに云はく、此の車は南無妙法蓮華經なり。即ち我等衆生の体なり。法華一部の総体なり。高広とは仏知見なり。されば此の車を方便品の時は諸仏智慧と云ひて智慧と説けり。其の智慧を甚深無量と称歎せり。歎の言には甚深無量と歎めたり。爰には其車と説きて高広と歎めたり。されば文句の五に云はく「其車高広より下は、如来の知見深遠なるに譬ふ。横に法界の辺際に周く、堅に三諦の源底に徹す。故に高広と言ふなり」と。所詮此の如来とは一切衆生の事なり。既に諸法実相の仏なるが故なり。知見とは色心の二法なり。知は心法、見は色法なり。色心の二法を高広と云へり。高広は即ち本迹二門なり。此即ち南無妙法蓮華經なり云云。